

IV. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

[論文発表]

1) 栗田 圭一

都市部住宅地域に在住する高齢者の自殺予防プログラムの開発：高齢者の自殺念慮の出現頻度と関連要因の調査から。

精神科, 2003;3:422-429.

2) 小泉 弥生, 栗田 圭一, 関 徹, 中谷 直樹, 栗山 進一, 鈴木 寿則, 大森 芳, 寶澤 篤, 海老原 覚, 荒井 啓行, 辻 一郎

都市在住の高齢者におけるソーシャルサポートと抑うつ症状の関連性。

日本老年医学雑誌 (印刷中)

3) Maruyama M, Arai H, Okamura N, Matsui M, Sasaki H.

Biomarkers in subjects with amnesic mild cognitive impairment.

J Am Geriatr Soc 2003;51:1671-1672.

4) Arai H, Matsui T, Maruyama M, Okamura N, Sasaki H.

Classification of dementias.

Lancet 2003;361:1227-1228.

5) Okamura N, Suemoto T, Shimadzu H, Suzuki M, Shiomitsu T, Akatsu H, Yamamoto T, Staufenbiel M, Yanai K, Arai H, Sasaki H, Kudo Y, Sawada T.

Styrylbenzoxazole derivatives for in vivo imaging of amyloid plaques in the brain.

J Neuroscience (in press)

6) Maruyama M, Matsui T, Tanji H, Nemoto M, Tomita N, Ootsuki M, Arai H, Sasaki H.

Cerebrospinal fluid tau protein and periventricular white matter lesions in aging, stable and progressive mild cognitive impairment: Implications for two major pathways.

Arch Neurol (in press)

7) Kanda A, Ebihara S, Takahashi H, Sasaki H.

Loxoprofen sodium suppresses mouse tumor growth by inhibiting vascular endothelial growth factor.

Act Oncol 2003; 42: 62-70.

8) Kanda A, Ebihara S, Okazaki T, Yasuda H, Sasaki H.

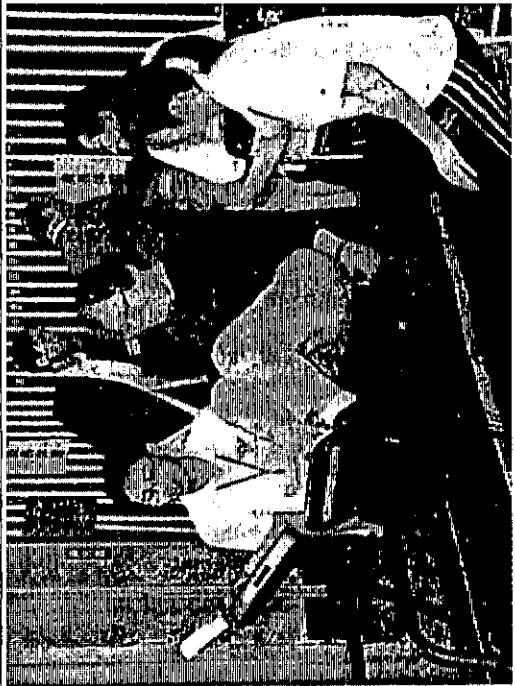
Loxoprofen sodium and survival in older people with advanced non-small cell lung cancer.

J Am Geriatr Soc (in press)

20030244

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

V. 新聞等の報道



測定器を使って脚の瞬発力を調べる高齢者。仙台市宮城野区の鶴ヶ谷市民センター

寝たきり予防へ連携

仙台市と鶴ヶ谷で本年度健診

仙台市宮城野区鶴ヶ谷地区に住む七十歳以上の高齢者を対象に、東北大と仙台市が実施する本年度の「寝たきり予防健康診断」が、鶴ヶ谷市民センターで行われている。通常の健診では調えない「老化度」を検査

し、結果が悪かった部分を個別指導して寝たきりを防ぐのが目的。昨年の健診では随れた重症疾患を発見するなど、具体的な成果も上がっており、今年度の健診結果が注目される。

健診は三十一日まで、同市民センターなど三五所で行われる。昨年も受診した約七百人を含む十六人が受診する予定。脚の瞬発力などを測定する体力検査、歯のかみ合わせを調べる歯

科検査など、約十五項目に及ぶ検査は約二時間かかる。

健診を担当する東北大の辻一郎教授によると、昨年は健診の結果、約百人に血液の流れる速さに異常が見つかり、このうち三人が大動脈瘤(りゅう)など診断され、手術を受けた。

体力の衰えが健診結果に表れた高齢者九十人に半年間、週一回、二時間の運動を勧めた結果、この日の受診者の体力測定値は「目に見えて良くなっている(辻教授)という。

本年度は、うつ症状に関するアンケートを実施し、うつの疑いがある高齢者には、専門の精神科医が家庭訪問して、閉じこもりなどの予防策を講じる。

また、鶴ヶ谷地区では十月、七十歳以上の高齢者に一日十五分の家庭学習を促し、読み書き、計算が苦手な高齢者に役立つかを調べるプロジェクトも始まる。

辻教授は「地縁、血縁が希薄な都市部では高齢者のうつ症状が深刻で、痴呆つや要介護の原因にもなっている。都市部の寝たきり予防策を早急に確立する必要がある」と話している。

東北大と仙台市が「寝たきり予防健康診断」を実施する中、実際は大学や市と無関係な「寝たきり予防委員会」などを名乗り、受診した高齢者から個人情報を聞き出したりする電話が、昨年以降相次いでいる。

「予防委」を名乗り 個人情報聞き出す

東北大公衆衛生学教室によると、昨年七月に実施した予防健診以降、「健診で聞き取りされた」などと言って、受診者から家族構成やかかりつけ医師などを聞き出し

便乗商法にご用心

たり「健診で異常が見つかった」として、健康器具を売りつけたりする便乗商法が横行している。

これまでに具体的な被害報告はないが、予防健診の期間中を中心に、実施に当たっての連絡事項を伝えるため、東北大が高齢者に頻りに電話することを悪用したとみられる。

東北大は「予防健診への不信感」が生まれるのが一番気がかり。電話連絡の前に必ず郵便物で内容を知らせているし、国の研究事業なので商品を買ってつけることもない」として、受診者に注意を呼び掛けている。

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

「介護予防に特化した在宅訪問指導プログラムの有効性評価に関する介入研究」

（H13-長寿-023）

平成 15 年度研究報告書（平成 16 年 3 月）

発行責任者
発行

主任研究者 辻 一郎
仙台市青葉区星陵町 2-1
東北大学大学院医学系研究科
社会医学講座公衆衛生学分野

TEL 022-717-8123

FAX 022-717-8125